

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

実施日：令和 5年 10月2日～10月14日

公表：令和5年 11月 15日

児童ルームたちキッズ 児童発達支援

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	6	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人数によって狭いと感じることがある。グループに分けて活動したりして工夫をしている。 ・子どもの人数によっては、狭く感じることがある。 ・活動によって、部屋を分けている。 ・間取り（コの字型）の問題もあり、利用人数によっては死角が生まれてしまう。トイレが足りない。 ・人数が多い時は活動によって部屋を分けたりなど少人数でしています。 ・人数が多い日は、1階のST室、面談室、廊下なども使い、ここに合った療育が出来るように工夫しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハード面の改善はなかなか難しいので…今後もグループ分けをしたり、部屋を分けて活動するなど、配置を工夫して怪我のないよう対応していきます。
	2	職員の配置数は適切である	9		<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ適切ではあるが、足りないと感じることもある。 ・利用児メンバーに合わせて、配置数も変更してもらっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に合わせて配置を対応していきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	3	<ul style="list-style-type: none"> ・階段の見通しが遮られてしまうことがあります。 ・以前に比べて個々に合わせた環境を工夫して設定するようになった。 ・各部屋、トイレ、並ぶ場所など…視覚的にわかりやすくしている。 ・小さい子の階段の移動が危険なことがある。 ・階段の段差が高い、手すりの位置が高いなど子どもたちの体格には合わない。 ・トイレ前に並ぶ場所、子どもたちが待機する場所には視覚的な手がかり、目安を設けている。 ・絵カードなどを提示しています。 また、数か所絵カードを自由に取れる場所を設けています。 ・各部屋に名前を付け、利用児が動きやすいよう動線も考えて療育にあたりています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・室内環境で幼児に対して適切ではない部分もあるが配置を考えたり、視覚的な提示を工夫したり…その都度対策を考えながら対応をしています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	2	<ul style="list-style-type: none"> ・活動によっては子どもたちを2グループに分け、部屋を分けて対応するなどできているが、療育室のスペースがもう少し広がると出来る活動も増えるのでは？と思う。 ・清掃は行っているが、広さが足りないと感じることがある。 ・毎日の掃除、定期的な消毒を行っている。 ・運動を主体とした活動を行うには狭い。怪我の心配がある。 ・仕切りを設置してもらうなど工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・室内環境で幼児に対して適切ではない部分もあるが配置を考えたり、視覚的な提示を工夫したり…その都度対策を考えながら対応をしています。 ・室内の清掃も引き続き、取り組んでいきます。
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	9			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9		<ul style="list-style-type: none"> ・対応できる範囲のことは行っていると思う。 ・療育風景（その日の様子）を写真を交えて伝えるなど、保護者の要望にも対応できることはしています。 	

業務改善	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9		・公開はしているが、どこまで見てもらっているかは不明。	・おたよりで案内するなど、公開の情報を提供していきます。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	3		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9			
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	2		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	9		・感触、指先知育、運動と分けての活動考案は続けてほしい。	・引き続き、活動内容に応じてグループで計画を立てていきます。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9		・個別の様子はその都度、児発管や他のスタッフに伝えている。	・今後も個別訓練の様子が情報共有しながら、支援計画を作成していきます。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9		・毎朝、朝礼を行い情報共有している。 ・皆が意見を出し合い、充実していると思う。	・職員間での情報共有を今後も継続していきます。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9		・終礼を行い情報共有をしている。	・職員間での情報共有を今後も継続していきます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9			
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9				
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	1	・必要に応じて担当者会議に参加している。	・今後も必要に応じて担当者会議等、外部の期間との連携を行っています。

関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9		・情報提供書を作成している。 ・情報提供書や会議などで行っている。	・今後も必要に応じて実施していきます。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		・情報提供書を作成している。 ・情報提供書や会議などで行っている。	・今後も必要に応じて実施していきます。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	2		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	8	・時々あるが、十分ではないかと思 います。	・今後検討していきます。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	3		
保護者への説明責任等	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9		・送迎(お迎えの時などにお話をし て話し合っているが、バス送迎利 用の保護者さんとは直接話す機会が 減っている。	・面談等を行い、その中でしっかりお話しできれば と思います。また、連絡ノートなどで情報共有を引 き続き実施していきます。バス送迎の方へは直接お 迎えを依頼するなど、事業所へ来ていただく機会を 促していければと思います。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	7	・日々の中でお話ししているが、ベ アトレという表現では行っていない。 ・その都度、アドバイス等は行っ ているが、ペアレントトレーニングと しての場は設けていない。	・ペアレントトレーニングの内容等、研修の機会が あれば行っていきたいと思っています。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		・保護者側から言ってごなければ、 悩みに気がつきにくいこともある。	・こちらから日々の様子をお尋ねするなど、話しや すい環境を心がけていきます。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	3	・今年度は久しぶりに保護者交流会 (親子レクリエーション)を実施す ることができた。 ・今年度は親子レク(夏祭り)が開催 できたのが良かった。 ・親子レクリエーションは開催され たが、保護者同士の連携支援までは 出来ていないです。	・今年度は4年ぶりに保護者交流会(親子レクリ エーション)を実施できました。普段の療育の雰囲気 を感じていただくよう親子での参加だったため保 護者の方向士での関わりは少なかったように感じて います。今後は保護者同士での関わりも含めた内容 の検討をしていければと思います。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8		・対応はしているが、必ずしも十分 ではないこともある。	・今後も必要に応じた対応を心掛けていきます。

	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月おたよりを発行しています。必要に応じてイベントのお知らせ等、別紙で配布しています。 ・日頃の活動の様子の写真を玄関に掲示したり、お迎えの際写真を見せたりできている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月おたよりを発行し、療育内容をお伝えしています。ホームページでもご確認いただけますのでご利用ください。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	7		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	2	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への周知はできていない。 	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、避難訓練を実施しています。 ・避難訓練は火災、地震、不審者等、場面によって対応を考えながら取り組めた。 ・訓練は行っているが、実際に災害が起こったときには建物の構造上、 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時にご説明させていただいています。また、室内（1階階段下）にも提示してありますのでご確認ください。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8			